

7月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年7月末現在〕

令和4年8月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「売上高」、は悪化、「収益状況」は変化なしだった。

業種別では、製造業は「景況」が悪化し、「売上高」、「収益状況」は改善した。非製造業は「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てで悪化した。

新型コロナウイルスの感染拡大の第7波で感染が急拡大した影響で客足が減少し、非製造業の売上高が大幅に悪化したことで全体の数値を押し下げた。また、収益状況は全体では変化なしであったが、非製造業を中心に収益悪化を懸念する状況は続いている。

景況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲46.2ポイント、非製造業は、前月比4.2ポイント悪化の▲25.0ポイント、全体では、前月比6.0ポイント悪化の▲36.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比15.4ポイント改善の▲3.8ポイント、非製造業は、前月比29.2ポイント悪化の▲25.0ポイント、全体では、前月比6.0ポイント悪化の▲14.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の▲42.3ポイント、非製造業は、前月比8.3ポイント悪化の▲45.8ポイント、全体では、前月比増減なしの▲44.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品製造業	学校給食パン	今年度の中央最低賃金審議会において、全国加重平均で30円以上の引上げとする方針で最終審議に入ったとの報道があった。しかし、今年も30円以上引上げとなると我々のような中小企業にとっては、さらに大きな打撃になるとの懸念が組合内では多い。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県6月の清酒課税移出数量は、前年同月比101.6%であった。本格焼酎についても、前年同月比127.6%であった。茨城の新型コロナウイルスの感染者は急増しており、飲み会もコロナ禍前と比べて全然戻っていない。清酒でみても、コロナ禍前の3年前に比べて86%であり、まだまだ回復には程遠い。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定な中輸出に注力し、令和4年5月の前年同月比輸出数量（全国ベース）は、100.8%であった。しかし、ウクライナ危機による今後の世界経済の悪化が懸念される。 ○県内当業界について コロナ第7波の猛威により外食は自粛ムードである。日本酒の主たる消費者である中高年が用心して外食や飲み会を控えていることが大きい。家飲みでの消費拡大も視野に入れて営業していく必要性が有る。地酒の知名度アップと高品質さを消費者に認識してもらおう等、Withコロナは企画力の勝負と考える。 JR主催の日本最大級の観光キャンペーンDCが来年茨城で行われる。今年はプレDCでJRや茨城県から種々のイベントの話をいただいている。当組合としてもPRのチャンスととらえ、DCを活用していきたいと考える。
		納豆	一般消費者向けの商品を主力としているメーカーは先月と状況が変わらないが、土産品向け商品を主力としているメーカーは、先月来の売上減少の状態が続いている。期待されるのはお盆や夏休み需要であるが、今月に入り新型コロナウイルスの感染者が増加傾向なのは懸念事項である。一方、もし夏休み需要が堅調であったとしても、操業度向上には雇用人員の増加が必要であり、長期に亘る不況下で雇用を抑制してきた中小企業にとっては人材難に遭遇することが懸念される。しかし、明確なポストコロナとは言い切れない状況下で、今後の感染状況によっては再びの生産調整、即ち労働力の調整が必要とされる可能性を否定できず、雇用調整助成金の特例措置の継続に不安のある状況下では、積極的な雇用も躊躇われる状況である。さらには、業界全体としては原材料の値上げが多岐に渡って続いており、特に土産品メーカーは、長期にわたるコロナ不況による内部留保の取崩とのダブルパンチで経営全体が圧迫されている。
		菓子	新型コロナウイルスの感染者の増加により、人出は少ないように感じる。原材料高、経費高で収益は悪化している。商品の値上げをしている組合員もいるが、消費者の可処分所得の減少により、簡単に実行できることではない。
		漬物	変化はない。
	繊維工業	袋物	若干ではあるが、業況が上向きになり始めている。円安の影響か、国内生産の話も出てきているが、国内での生産体制を作れるかは難題である。
	木材・木材製品	製材	・構造材は、桧・杉ともに価格は全体的に弱含み（価格が安くなろうとしている状態）で推移した。 ・羽柄材は、住宅需要の落ち着きから全般的には荷動きが低調だった。 ・輸入材は、価格は横ばいで荷動きは低調であった。 ・原木の入荷は順調であった。価格については、杉は横ばいだったが、桧については弱含みとなった。
		県央地区プレカット	電気料金に消耗品等経費が高騰しているが、加工単価が上げられない状況が続いている。経費削減の努力もしながら、粘り強く加工単価の質上げ努力も続けていきたい。木材も一時期より納材期間が短縮されてきている。
	紙・紙加工品	段ボール	仕入れコスト・ガソリン代・電気代等の値上がり分のコストを販売価格の改定でも吸収しきれず、収益が悪化している。また、注文量も昨年よりも悪くなっており、今後が心配される。大手企業も7月は注文が少なかったと聞いている。
	印刷	総合印刷	新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、各種イベント等も以前に戻りつつあった矢先、ここにきて感染者の人数が連日、過去最高を更新する状況になっている。足掛け3年の長きに渡るコロナ禍との闘いで生活様式、社会全体の動きが大きく変わってきており、業界の不安は大きい。
	化学・ゴム	自動車部品	組合員全体としては悪い状況であることに変わりはないが、事業所ごとに程度の差は激しい。
	窯業・土石製品	陶磁器	ここにきて新型コロナウイルスの感染者が拡大している。秋のイベントへの影響が懸念される。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	鉄鋼・金属	鉄鋼	・売上高は前年同月比1割程度増加した。しかし、前年の実績が悪かったためで、3年前の同月比ではまだ減少している。自動車関連部品を除き、建築部品や機械部品などの他の業種については、3年前の水準に戻りつつある。 ・めっき加工代については、各社で値上げ交渉し値上がりした部品もあるが全てではなく、現在値上げ交渉中の物もある。 ・金属については、貴金属・ニッケル・銅・亜鉛・鉄・ステンレス鋼などすべて高値である。 ・薬品等についても値上がりしている。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は前年同月比で、2社増加で5社減少であり、全体増減率は88%であった。4月以降減少していた主要取引先からの受注は回復傾向にあり、前年同月比で88%まで回復。減少幅も縮小してきている。R3年7月はR2年同月比で173%と大幅増加、R4年7月はR2年同月比では134%となっている。組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上高は回復基調にあるが、取引条件は厳しくなっている。
非 製 造 業	卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比1.27%減少した。昨年の10月以来、9か月ぶりに取扱高がマイナスに転じた。新型コロナウイルスの感染拡大、商品価格の高騰等の影響で、丑の日用の鰻の荷動きなども前年同月を大きく下回った事が影響している。8月の繁忙期を前に現在も新型コロナウイルスが感染拡大しているため、一般買受人・仲卸業者等厳しい状況が続いている。
		セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、引き続き県南地区の建設工事等が活況で増加したが、それ以外の地区は総じて低調に推移。総合的には、前年同月を13%下回った。
	小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比111.98%、客数は同169.57%であった。7月19日から始まったプレミアム付き商品券の効果が如実に表れている結果となった。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店（雑貨店1店舗）の売上（客数）は前年同月比で100%（98%）となり、前年同月と同等の結果となった。主要業種では、食品99%（98%）、飲食100%（102%）、ファッション104%（97%）であった。前年と同様に7月下旬より新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあり、8月の売上・客数の減少が懸念される。先月に引き続き、外食が増えてきている影響か、食品（特に生鮮）の売上が下がっている。7月8日（金）からはサマーバーゲン、7月28日（木）からは月末食品市を開催し、チラシの折込も行った。
		県南地区共同店舗	新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が出てきている。特にフィットネス、リラクゼーション、カルチャースクール等は、講師の先生たちの休講により、営業、開催出来ないケースが出てきている。また、催事業者等もキャンセルが相次いでいる。更に、電気、重油等の値上がりも響きだして、収入が下がっているところに、固定費支出を含め資金繰りが更に厳しくなっている。 既存店の売上は前年同月比で、全体90.7%、衣料107.3%、文化品25.9%、食料品103.1%、飲食105.0%、サービス94.8%であった。 特別招待会を今年と前年で異なる月に実施しているので、文化品の売上がこのような結果となった。
		家電	太陽光発電で発電した電気をためる目的で、家庭用蓄電池の設置件数が増加している。電力の固定価格買取制度は10年間で終了であり、電気を安価で売るよりも、自宅で使う事を選ぶケースが増えているためである。組合としてもコロナ禍ではあるが、感染対策をした上で早急に研修を開いて、組合員も蓄電池を販売できるようにして、秋商戦に活かしたい。
		燃料小売	原油価格の高止まりや円安の影響で、ガソリン等の販売価格は依然として高いものの、政府の燃料油価格激変緩和策で価格上昇を抑えている。また、今年は梅雨明けが早く、7月中旬までは、販売数量も増加した。しかし、新型コロナウイルス感染の第7波と呼ばれる7月中旬以降になると、県内でも感染者数が過去最多となり、後半になると販売数量も減少した。
		中古自動車	販売台数は前年同月比96.3%と減少したものの、販売価格が同109.0%で統計以来最高値で大幅に上昇したため、売上高も同105.0%と前年同月を上回った。ただし、中古車の発生不足によって流通市場価格の高騰に歯止めがかかっておらず、実質販売利益は横ばいで収益改善には至っていない。
		食料品	7月については、県内の新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、来店客数が減少したことにより、売上も前年同月比で95%と厳しい結果であった。そうした中でも、7月下旬から真夏日が続くようになり、飲料・アイス等の売上が大きく伸び始めた。今後も、この天候・気温が続く予報が出ているので、夏場需要が高い商品の積極的な販売を行う。今後も来店客に安心・安全な店であるように、新型コロナウイルス感染対策は積極的に行っていく。
		野菜・果実	7月の取扱高は、野菜果実合計で前年同月比93.7%の取扱高となった。野菜に関しては、例年より早い梅雨明けにより一部では高温障害も見られたようで、品目によっては価格の上昇も見られたが、全体的には平年並みで推移した。高温障害に関しては、果物の方が影響が大きく、全体的に小玉傾向となり、出荷量も少なく、単価高となっているようだ。西瓜などは単価上昇などにより、売れずに残っているのが市場に多く見られた。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	商店街	水戸	材料費の値上がりがあり、収益が厳しい状況である。
		筑西	新型コロナウイルスの感染者の急激な増加に伴い、7月19日から予約のキャンセルが入り始め、入っていた予約の95%がキャンセルになってしまった（宴会・会議等）。
	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の前年同月比は、減少となった。普通車の車検台数が数か月連続減少している。軽自動車においては、若干の増加が見られるものの、全体としては、車両入庫台数は減少傾向にある。あわせて、原油の高騰によるエンジンオイル等の油脂類の高騰も重なり、収益面での悪化が懸念される。
		ホテル・旅館	7月上旬までは新型コロナウイルス感染の第6波が沈静化に向かい、観光客、宿泊客が回復基調にあったものの、中旬以降は感染者数が急速な増加に転じ、夏休み期間の予約キャンセルも少しずつ出てきた。「県民割」の期間延長等により宿泊者数増加の期待はあるが、新型コロナウイルスの感染拡大によって予約キャンセルの懸念がある。引き続きエネルギー価格、食材、燃料油等の資材の高騰によるコスト増加の影響が懸念材料となっている。施設によっては、雇用の確保が難しい状況となっている。
非 製 造 業	建設業	総合	土木工事は発注が続き景況はやや好転。ただし、まだ十分な工事が発注されないため価格競争は激しい。建設工事は夏休みの学校改修工事が例年よりも非常に少なく、受注減で減収となり経営は厳しい。
		県北地区管工事	仕入先からの要請で、9月からの一部の材料の再値上げに対し、値上げ分を販売価格に転嫁できないので、その分の収益の減は免れない状況である。
	運輸業	一軽貨物運送	当月の組合員数は112名、車輛台数は143台で前月と比較して1名と2台の減少であった。また、運送売上高については、前年同月比88%と減少であった。全国連合会での当月の組合員数は6,933名、車輛台数8,221台で前月と比較して43名減少、50台減少であった。
		県北地区一般貨物	主要顧客の出荷物量に関して、製品毎の増減はあるものの、全体としては昨年同様に低調に推移している。燃料価格も先月よりは若干下がったが、昨年よりも値上がりしており高値安定、収益は厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食における、パン給食の回数の増加。
	納豆	雇用調整助成金の特例措置の継続、更に業況特例等の条件の廃止もしくは廃止を期待する。また同じく、土産品業界という飲食業に劣らぬコロナ禍を被ってきた業界としては、これまでの時短要請に起因して間接的に生じた不利益に対する補償としての格別の手厚い支援金を引き続き要請したい。また、振興策としての県民割、ブロック割や、特に以前のGOTOトラベルの様な全国的な制度には、感染状況との兼ね合いがあるだろうが、積極的な取組を期待する。これらの措置を感染状況による業況変化のスタビライザーとして複合的に運用されることを期待したい。また、原材料価格高騰への対策も期待されるところである。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和策の継続 ・新型コロナウイルス対策
商店街	筑西	制限をかけなくても、一般市民は自主的に行動制限をしてしまう。物価上昇、電気代、ガソリン代、ガス代の高騰、売上減少、悪条件が揃いすぎて、どれだけ企業努力をしても、どうにもならない。1日も早く、緊急事態宣言をして、休業補償だけでも出して欲しい。
建設業	総合	これからは発注される工事は年度末完成工事が多くなると予想されるので、工事の完成時期を年度末以外にも分散して発注をして欲しい（事業年度内に工事が完了しない繰延工事を含む）。また、資材単価の上昇は施工者にとって最大の不安事項であるので、建設資材の単価スライド（工事材料の価格に著しい変動が生じ、請負代金額が不適当となった時に、請負代金の変更を請求できる措置）をお願いしたい。

月次景況調査 7月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比
景 況	▲ 36.0	▲ 30.0	▲ 6.0	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 7.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 4.2
売 上 高	▲ 14.0	▲ 8.0	▲ 6.0	▲ 3.8	▲ 19.2	15.4	▲ 25.0	4.2	▲ 29.2
収 益 状 況	▲ 44.0	▲ 44.0	0.0	▲ 42.3	▲ 50.0	7.7	▲ 45.8	▲ 37.5	▲ 8.3
販 売 価 格	26.0	30.0	▲ 4.0	15.4	15.4	0.0	37.5	45.8	▲ 8.3
取 引 条 件	▲ 18.0	▲ 18.0	0.0	▲ 19.2	▲ 23.1	3.9	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 4.2

中小企業月次景況調査(令和4年7月)DI値(前年同月比)

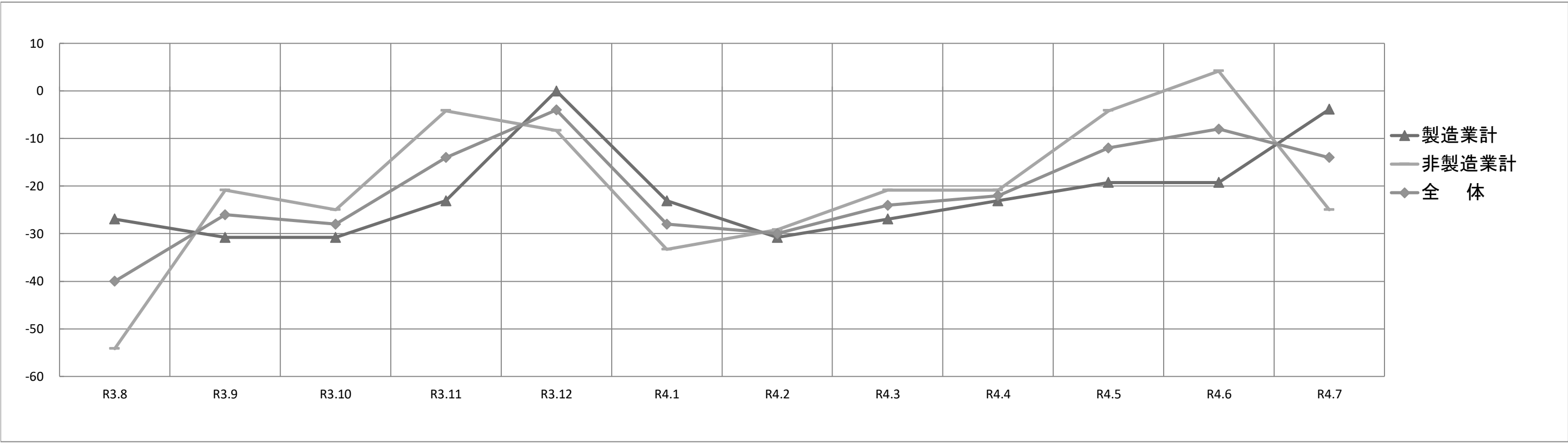
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)													
			増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数						
製造業	食料品	△ 50.0	0	3	3	6	0.0	1	4	1	6	16.7	1	5	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 33.3	0	4	2	6	△ 66.7	0	2	4	6
	繊維工業	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	60.0	3	2	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	100.0	3	0	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	製造業計	△ 3.8	7	11	8	26	7.7	4	20	2	26	15.4	5	20	1	26	△ 19.2	0	21	5	26	△ 42.3	1	13	12	26	△ 26.9	1	17	8	26	△ 7.7	3	18	5	26	△ 3.8	1	23	2	26	△ 46.2	1	12	13	26
非製造業	卸 売 業	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小 売 業 (商店街含む)	△ 16.7	4	2	6	12	0.0	1	10	1	12	25.0	4	7	1	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 41.7	0	7	5	12					△ 16.7	0	10	2	12	△ 8.3	0	11	1	12	
	サービス業	0.0	1	0	1	2					50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	0.0	1	0	1	2		
	建 設 業	△ 20.0	0	4	1	5					60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	0.0					0	5	0	5	△ 20.0	1	2	2	5		
	運 輸 業	△ 50.0	0	1	1	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0					0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2		
	非製造業計	△ 25.0	5	8	11	24					△ 6.7	1	12	2	15	37.5	10	13	1	24	△ 16.7	0	20	4	24	△ 45.8	0	13	11	24	△ 25.0					0	18	6	24	△ 16.7	0	20	4	24	△ 25.0	2
全 体		△ 14.0	12	19	19	50	2.4	5	32	4	41	26.0	15	33	2	50	△ 18.0	0	41	9	50	△ 44.0	1	26	23	50	△ 26.0	1	35	14	50	△ 7.7	3	18	5	26	△ 10.0	1	43	6	50	△ 36.0	3	26	21	50

D I 値推移表（R3. 8月 ～ R4. 7月期）

《売上高の推移》

前年同月比	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7
食料品製造業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業（食料品製造業以外	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0
製造業計	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 3.8
卸売業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	0.0	0.0	▲ 66.7
小売業（商店街含む）	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	0.0	▲ 16.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 40.0	20.0	0.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 4.2	4.2	▲ 25.0
全体	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 24.0	▲ 22.0	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 14.0

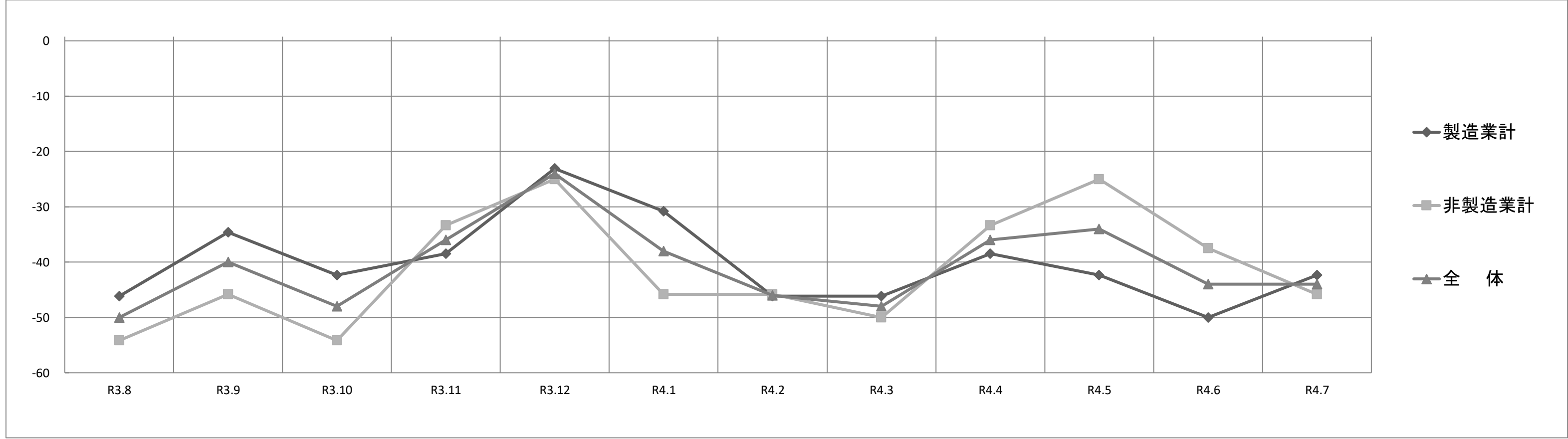
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業（食料品製造業以外	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 42.3
卸売業	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7
小売業（商店街含む）	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0
建設業	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 45.8
全体	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0	▲ 46.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 44.0

《収益推移グラフ》

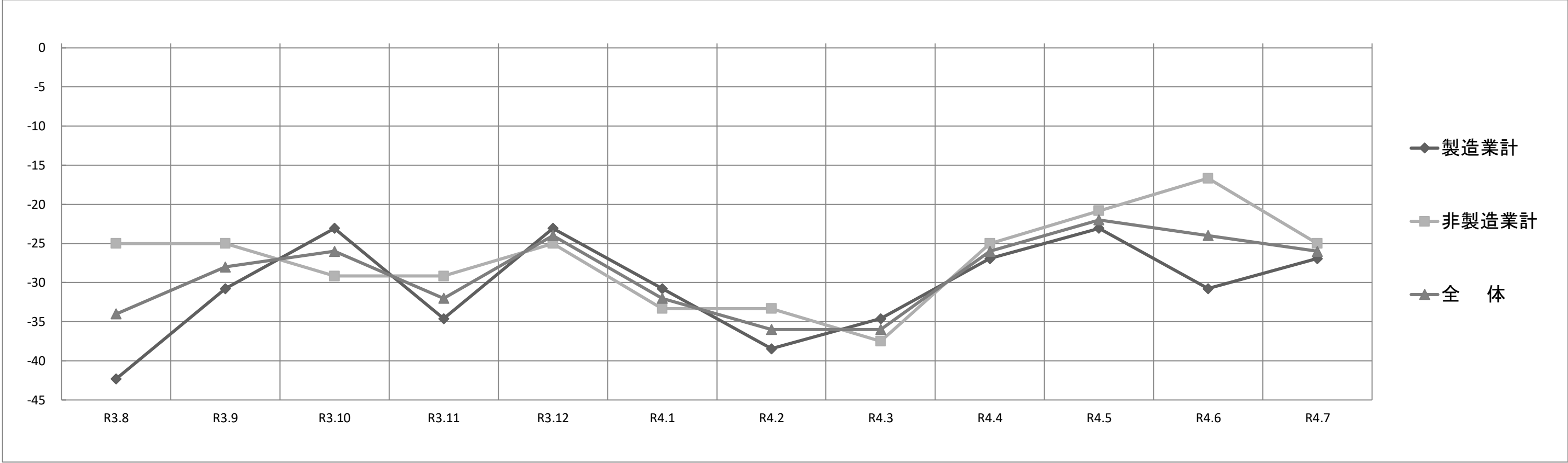


D I 値推移表（R3. 8月 ～ R4. 7月期）

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7
食料品製造業	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0
製造業（食料品製造業以外	▲ 30. 0	▲ 15. 0	▲ 10. 0	▲ 25. 0	▲ 15. 0	▲ 25. 0	▲ 30. 0	▲ 20. 0	▲ 25. 0	▲ 20. 0	▲ 25. 0	▲ 20. 0
製造業計	▲ 42. 3	▲ 30. 8	▲ 23. 1	▲ 34. 6	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 38. 5	▲ 34. 6	▲ 26. 9	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 26. 9
卸売業	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
小売業（商店街含む）	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 41. 7
サービス業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
建設業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
運輸業	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0
非製造業計	▲ 25. 0	▲ 25. 0	▲ 29. 2	▲ 29. 2	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 37. 5	▲ 25. 0	▲ 20. 8	▲ 16. 7	▲ 25. 0
全体	▲ 34. 0	▲ 28. 0	▲ 26. 0	▲ 32. 0	▲ 24. 0	▲ 32. 0	▲ 36. 0	▲ 36. 0	▲ 26. 0	▲ 22. 0	▲ 24. 0	▲ 26. 0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7
食料品製造業	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 66. 7
製造業（食料品製造業以外	▲ 30. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 20. 0	▲ 5. 0	▲ 25. 0	▲ 45. 0	▲ 40. 0	▲ 30. 0	▲ 40. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0
製造業計	▲ 42. 3	▲ 30. 8	▲ 30. 8	▲ 34. 6	▲ 11. 5	▲ 38. 5	▲ 53. 8	▲ 50. 0	▲ 42. 3	▲ 38. 5	▲ 38. 5	▲ 46. 2
卸売業	▲ 100. 0	▲ 100. 0	▲ 66. 7	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	0. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 66. 7
小売業（商店街含む）	▲ 50. 0	▲ 58. 3	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 16. 7	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 8. 3	▲ 8. 3	▲ 8. 3
サービス業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	50. 0	0. 0	0. 0
建設業	0. 0	20. 0	20. 0	20. 0	20. 0	0. 0	0. 0	▲ 40. 0	▲ 60. 0	▲ 40. 0	▲ 40. 0	▲ 20. 0
運輸業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0
非製造業計	▲ 45. 8	▲ 45. 8	▲ 29. 2	▲ 25. 0	▲ 16. 7	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 45. 8	▲ 33. 3	▲ 16. 7	▲ 20. 8	▲ 25. 0
全体	▲ 44. 0	▲ 38. 0	▲ 30. 0	▲ 30. 0	▲ 14. 0	▲ 40. 0	▲ 48. 0	▲ 48. 0	▲ 38. 0	▲ 28. 0	▲ 30. 0	▲ 36. 0

《景況推移グラフ》

